

芥川賞作家 三田誠広、町田康のほか、
数多くの受賞歴がある
歌人・俳人・詩人などが選考委員を務めます。

武蔵野 文学賞

高校生部門

自分と向き合い、
浮かんだことを書いてみよう。

募集期間

2026年7月1日(水)～8月31日(月)

応募資格

高校生・大学受験生

※全国高等学校及びそれに準ずる学校に在学中の方(高等学校卒業程度認定試験合格者も含む)

募集概要

※短歌部門は、本学文学部の初代主任教授である
歌人・土岐善麿にちなみ「土岐善麿短歌賞」として設定されます。

小説部門

応募規定

400字詰め原稿用紙20～50枚
(20字×400～1,000行)程度
ジャンル・テーマ不問

賞・副賞

- ▶最優秀賞1篇
(副賞 5万円)
- ▶審査員特別賞1篇
(副賞 3万円)
- ▶優秀賞2篇以内
(副賞 各1万円)
- ▶佳作2篇程度
(副賞 なし)

俳句部門

応募規定

- ①1句単独の部
- ②複数句の部
10～20句程度で
構成された一連の作品

賞・副賞

- ①1句単独の部
 - ▶最優秀賞1句
(副賞 1万円)
 - ▶優秀賞2句以内
(副賞 図書カード各3千円)
 - ▶佳作5～10句程度
(副賞 なし)
- ②複数句の部
 - ▶最優秀賞1篇
(副賞 3万円)
 - ▶優秀賞2篇以内
(副賞 図書カード各5千円)
 - ▶佳作2篇程度
(副賞 なし)

土岐善麿短歌賞

応募規定

- ①1首単独の部
- ②連作の部
10～20首程度で
構成された一連の作品

賞・副賞

- ①1首単独の部
 - ▶最優秀賞1首
(副賞 1万円)
 - ▶優秀賞2首以内
(副賞 図書カード各3千円)
 - ▶佳作5～10首程度
(副賞 なし)
- ②連作の部
 - ▶最優秀賞1篇
(副賞 3万円)
 - ▶優秀賞2篇以内
(副賞 図書カード各5千円)
 - ▶佳作2篇程度
(副賞 なし)

詩部門

応募規定

20～60行程度の詩作品

賞・副賞

- ▶最優秀賞1篇
(副賞 3万円)
- ▶優秀賞2篇以内
(副賞 図書カード各5千円)
- ▶佳作2篇程度
(副賞 なし)

評論部門

応募規定

以下①、②ともに
400字詰め原稿用紙10～25枚
(20字×200～500行)程度

- ①武蔵野の部
「武蔵野」という
言葉が登場する作品に
ついての評論
- ②自由の部
日本語、日本文学、
日本文化に関する評論

賞・副賞

- ①、②ともに
 - ▶最優秀賞1篇
(副賞 5万円)
 - ▶審査員特別賞1篇
(副賞 3万円)
 - ▶優秀賞2篇以内
(副賞 各1万円)
 - ▶佳作2篇程度
(副賞 なし)

結果発表

2026年11月中旬
本学ホームページにて発表

授賞式

2026年12月中旬(予定)
オンラインにて実施

お問い
合わせ

武蔵野大学 入試センター
武蔵野文学賞「高校生部門」担当
(株式会社公募ガイド社内)

TEL : 03-5405-2065
E-mail : musashino-hs@koubo.co.jp

詳細は
こちらから



選考委員

小説部門



み た まさひろ
三田 誠広

〔作家・本学 名誉教授〕

生きづらい世の中です。そうであっても、いきなりファンタジーに逃げないでください。目の前の現実をしっかりと見つめて、その現実を乗り越えていく新たな冒険物語でもいいし、やむなく現実から逃避していく悲しい物語でもいいのですが、出発点となる現実がきちりと描かれていれば、作品は安定します。いまの時代の高校生が見つめる現実。それはまだ誰も書いていない、新しい文学です。そのような新鮮な文学を期待しています。



ま ち だ こ う
町田 康

〔作家・本学 教授〕

小説に決まりはなく、おもしろければなにをどう書こうとかまいません。思いを自由に羽ばたかせて物語ってみてください。

宮川 健郎 〔作家・本学 名誉教授〕

土屋 忍 〔本学 教授〕

楊逸 〔作家・本学 客員教授〕

俳句部門



い の う え ひ ろ み
井上 弘美

〔俳人・本学 客員教授〕

高校生を対象とする武蔵野文学賞「高校生部門」【俳句部門】では、1句単独での応募に加えて、複数の俳句で構成された作品を募集しています。何れも、全ての入賞作品に丁寧な選評、鑑賞文を付して作品集に掲載します。作品は、どういう言葉で評価されるかが大切で、それが作者には励みになり、次の可能性へと繋がるのです。

本部門では選考委員一同、高校生の皆さんの清新な作品をお待ちしています。

三浦 一郎
〔本学 教授〕

堀切 克洋
〔俳人・本学 教授〕

土岐善麿短歌賞



は や し
林 あまり

〔歌人・本学 講師〕

短歌は、なんにもいりません。砂に指で書いても短歌はできます。紙に書けば、賞に応募もできます。日々の生活で思ったままを書いてもよいし、壮大な作り話を書いてもいいのです。私は主人公とお話を考えてつくるタイプです。皆さまのご応募をお待ちしております！

寺井 龍哉
〔歌人・本学 専任講師〕

河路 由佳

〔歌人・本学 日本文学研究所客員研究員〕

横山 未来子
〔歌人〕

詩部門



撮影:神藤 剛

ふ づ き ゆ み
文月 悠光

〔詩人・本学 客員教授〕

自由詩には厳格なルールはありません。極論、語り手は人でなくても構わないのです。身近な道具、動物、空や海などから視点を借りて自由に語りはじめることができます。その自由さが詩の魅力です。自分以外の何者かになりきることによって解き放たれる。あるいは言葉によって自分自身に向き合い、小さな「気づき」を得る。世界が少し違って見えてくるでしょう。あなたが心から「これこそが自分の詩だ」と言えるような、そんな力強い作品をお待ちしています。

評論部門

小西 聖子 〔本学 学長〕

本学 日本文学文化学科教員

